

第3回地方独立行政法人名張市立病院評価委員会 要旨

日時：令和6年10月10日（木）15：00～15：45

場所：名張市武道交流館いきいき

出席者：（委員）伊藤委員長、森岡委員、江藤委員、時枝委員、和田委員

（事務局）中村副市長、田中総務部長、岩本福祉子ども部長、藤井病院長、登内顧問、吉岡副院長、大北事務局長、中西理事、辻川総務企画室長、瀧本総務企画室係長、吉岡総務企画室主任

傍聴者：計12名

議題	発言者	内容
第4財務内容の改善に関する事項	和田委員	財務のところに関して、抽象的という印象を持った。先行事例では、非常に具体的な目標を設定されている。中期計画でも構わないが、財務という数字が出てくる部分になるので、もう少し具体的な表現があってもいいのではないか。
	中西理事	先行事例においては、具体的な目標値を設定されているところもあるが、第1期中期目標において、「医療従事者の確保」を1丁目1番としている関係上、具体的な収支目標を設定していない。中期計画で策定される定量的な収支目標を最大限に尊重させていただきたいと考えている。
第2の1の(2)がん、心疾患、脳卒中等の医療需要に応じた診療機能の強化	時枝委員	何か重い病気にかかった時、小さい地元の病院で解決できるにも関わらず、遠くの大きい病院を頼ってしまいがちであり、そのまま通院されているように感じている。退院後の診療は、地元へ戻って来ているのか。
	大北事務局長	市立病院は、全ての診療科が網羅されているわけではないため、広く紹介という形で連携を図っている。紹介先での治療が終了した後は、基本的に地元で治療を継続している。ただし、集中的なリハビリなどについては、そういった施設への転院ということもある。
	森岡委員	紹介した先での手術などの治療を終えられた後は、概ね2～3か月程度、その病院で経過観察を行い、地元

	伊藤委員長	<p>へ戻って来ている。ただし、年1回程度は、その病院での経過観察は必要である。</p> <p>今後の診療体制は、三次的・二次的・一次的意味合いにおける「連携」という形で進んでいくと思っている。市民の皆さんが不安にならないよう、こうした情報を紹介していくということは重要であると思う。</p>
第2の1の(5) 災害時や新興感染症発生時に備えた体制の確保	<p>和田委員</p> <p>吉岡副院長</p> <p>和田委員</p> <p>吉岡副院長</p>	<p>この規模の医療機関では、DMATは余り積極的に活動をされていないのか。</p> <p>DMATについては、非常に力を入れており、1月に発生した震災の際にも2回の派遣を行い、現地での医療支援を行っている。</p> <p>頑張っているのであれば、今後も充実させる旨を記載してはどうか。</p> <p>災害拠点病院であることから、DMATに関する内容を追記する。</p>
第2の3の(5) 市民に対する積極的な情報発信	<p>和田委員</p> <p>時枝委員</p> <p>大北事務局長</p>	<p>市民に対する広報に関して、市の広報誌の一面に必ず市立病院の記事を掲載するなど、充実させた方が良いと思う。また、必ず掲載しなければならないという意識が生じることで、色々な情報をみんなで考えようとする効果もある。</p> <p>名張市では、「何とかなるなるなばりです」というキャッチフレーズにちなんで、「何とかなりました。」という事例を募集、公表という動きを始めている。病院関連で、このようなことを記事として掲載すると、市民も広く病院のことを知ることになると思う。</p> <p>法人化しても公立病院に変わりがないことから、広報誌の一部を割いてもらえたらという風に考える。中期目標に記載してある内容としては、ホームページや広報誌を通じてということに記載しているため、具体的な事項については中期計画で記載していきたい。</p>

その他	時枝委員	中期計画への要望として、重要な事項を推進するための体制づくりというところに踏み込んだ形で策定してもらえるとありがたい。
	大北事務局長	第1期については、組織をきっちり作るということが一番重要になると考えているため、中期計画の中で厚みを持たせていきたい。
	伊藤委員長	伊賀地区の医療提供体制の理想の中で、名張市立病院が地域の基幹3病院の中で、こういった役割を担うのかというところを踏まえ、第1期については、どこまで取り組むのかという点から、どの分野の医療従事者の確保が必要なのかというあたりの方向性を検討していくことは大事であると思う。